

三沢市地域公共交通会議 会議録

会議名称	平成27年度 第4回会議					
開催日時	平成28年3月15日(火) 14時00分～15時00分					
場 所	三沢市役所 別館4階 第一研修室					
出席者	会 長	小渡 章好	副会長	馬場 敏幸(代)	委 員	浪岡 貞蔵
	委 員	松村 明裕(代)	委 員	赤石 佳昭	委 員	佐藤 美仁(代)
	委 員	目時 晃	委 員	向中野 貢	委 員	大澤 裕彦
	委 員	山本 優	委 員	高橋 常幸	監 事	坂本 幸子
	事務局	三沢市：岡部課長補佐、岩織係長、川嶋主事、 株式会社ケー・シー・エス：石田、長瀬				
会議次第	1 開 会 2 小渡会長挨拶 3 議 事 (協議事項) 三沢市地域公共交通網形成計画(案)について 4 閉 会					
会議の経過及び審議結果(概要)						
<p>1 開会</p> <p>2 小渡会長挨拶</p> <p>3 議事 (協議事項) 三沢市地域公共交通網形成計画(案)について 事務局から三沢市地域公共交通網形成計画(案)を説明</p> <p><主な意見> (松村代理委員) ・P91に記載されている「外国人向け公共交通マップ」の具体的なイメージを教えてください。</p> <p>(事務局) ・今年度、既に作成済みである。対象は主に三沢基地所属の外国人としており、三沢基地を基点としたマップとなっている。次年度以降、観光客を含めた形で対応したい。</p> <p>(馬場代理委員) ・以前将校クラブの女性達と一緒に英語版ガイドマップを作った際は、ゲートを背に見た方が見やすいとの提案を取り入れ作成した。実際に使う方々の意見は汲んでいるのか。</p> <p>(事務局) ・基地から最寄りバス停であるアメリカ広場を基点に、外国人の方の利用が多いと想定される場所をメインに作成した。配布後いろいろな意見をいただき、次年度以降作るマップに反映させたい。 ・作成部数は1000部程度である。</p> <p>(小渡会長) ・十和田観光電鉄では運行中に外国人対応で困ったことはないか。</p> <p>(佐藤代理委員)</p>						

- ・一般路線では外国人利用者はほとんどいない。
- ・休日のイオン下田シャトルバスでは、英語版のチラシを作成し配布した。
- ・英語しか話せない方は少なく、日本語で会話できる方が利用されているようであり、運転手が外国人対応に苦労しているということはない。

(小渡会長)

- ・タクシーの外国人利用はあるか。

(向中野委員)

- ・外国人利用はある。タクシーは基地内に入れられないため、三沢基地からの利用者は門外で乗せる。自宅はハウス番号を聞けば場所が分かるが、聞き取れないときは方向を教えてもらい移動している。

(小渡会長)

- ・三沢市内で国際交流活動は行っているのか。

(大澤委員)

- ・先週の日曜日、アイスアリーナでお子さん達の交流を行った。4月23日(土)には中央公園で三沢基地と市内の小学生600人規模の運動会を初めて開催する。普段の学校生活においても、1クラスに数名外国人がいるため交流がある。国際交流センターでは常に外国人が来て日本語の勉強をしている。
- ・運動会は米軍の予算で大規模に行う模様。情報発信はこれからである。

(小渡会長)

- ・P96の目標⑥の利用促進について、ターゲット別にモビリティマネジメントの具体的な方法を検討していただきたい。
- ・パブリックコメントは的を射た指摘であるため、検討していただきたい。
- ・インターネット、スマートフォンでの案内を高校生は自在に使いこなしているが、高齢者は紙ベースの情報になるかと思う。

(馬場代理委員)

- ・商工会において高齢者への情報発信は重要なテーマである。スマートフォンは打ち間違いが多いようだが、大きい画面のタブレットは操作出来る様子。

(小渡会長)

- ・いずれスマートフォンは普及する。知りたい情報を絞り込んで使えるようソフト開発会社と組み、三沢に特化した分かりやすいアプリを作るのはどうか。

(馬場代理委員)

- ・アーケード街の一方通行を対面通行にすることで、資産の有効活用ができないか。逆走車もあり危険である。

(大澤委員)

- ・市から警察を通して問い合わせ、正式な回答を得ている。道路を作り直す必要があり当面は不可能であるとのことであり、すぐに解決できる問題ではない。

(小渡会長)

- ・三沢市地域公共交通網形成計画について、ご異論なければ提示した計画でよろしいか。

(一同)

- ・異議なし

(向中野委員)

- ・地域公共交通網形成計画において、タクシーで貢献できることを模索していきたい。目標1の「日常生活における移動」では、高齢者の通院等をタクシーが担うことは考えられる。⑦「三沢駅周辺整備と合わせた、鉄道とバスやタクシー等との乗継利便性の向上」、⑨「広域交通と二次交通の一体的な公共交通ネットワーク構築」以外にも、タクシーの役割はあると思

っている。

- ・バス停まで歩いて行けるお年寄りには元気だが、病院に行く具合が悪いお年寄りにバス停まで歩かせるのは酷である。

(小渡会長)

- ・タクシーの活躍の場は高齢化に伴い増えると思う。
- ・どういった貢献ができるか内部で意見を出し合ってみてはどうか。実際、薬の受け取りなど一昔前では考えられなかったことをタクシー会社が代行で行っている。運転手は優れた介助者でもある。バスではそこまでできない。

(山本委員)

- ・スーパーまで坂道で徒歩 10 分の距離を、150 円で自宅まで運ぶタクシー会社の取り組みがテレビで放送されていた。気軽に利用できる金額で利用率も高いようである。地域特性が違うのでそのまま適用はできないが、参考にできる部分もあると思う。

(小渡会長)

- ・高齢者は抱える問題を解決してくれる人を探している。そこに着眼すると新しいタクシーのサービスが生まれる。今まで駄目であったことを変えるよう、業界の方には意欲を持ち自主的に議論していただきたい。移動と別なものを組み合わせた、タクシーにしかできないサービスは沢山ある。

(向中野委員)

- ・利用者で塾帰りの子供も結構いる。

(坂本委員)

- ・知人で 80 歳になった方がおり、マイカーに年間 20 万円使うのであれば、公共交通やタクシーを利用した方が安全面でも良く、費用面でもさほど変わらないとお話したところ免許を返納した。そういった高齢者が今後増えてくると思う。移動の不自由を感じないように免許返納者へのタクシー料金の割引があると良い。

(小渡会長)

- ・運転する楽しみもあるかと思うが、将来的に自動運転になり移動のみの活用となるのであれば、安全面でもタクシーで移動した方が良い。いずれ訪れる変化をどうチャンスに繋げるかが重要である。

(KCS)

- ・計画の実施に向けてこれからが大変であると思う。路線・運賃の見直し、ターゲットに合わせた利用促進などハードルが高い部分もある。外国語版マップの改善も含め三沢ならではのものが出来る種はこの計画に入っている。一つ二つでも花が咲くものが出てくると良い。

(佐藤代理委員)

- ・3月26日に軽微な時刻変更を行う。青い森鉄道との時間調整は早々に行った方が良いと考えている。青い森鉄道のダイヤ改正公表は2月19日。12月8日には概要案が分かり、それを受けて案を作成していたが、なかなか確定にならなかった。
- ・慢性的な運転手不足・高齢化している。
- ・女性ドライバーは三沢営業所に1名いる。

4 閉 会

以上